

科目名	国際情報論特講	担当者	カトウ コウジ 加藤 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>これから国際情報分野（国際・政治・経済・経営）を学び、諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを学ぶ。具体的には研究を行う上で欠かせない論文作成上の注意事項、研究倫理、文献検索の方法等理解するとともに、研究基盤となる知識・教養の涵養を目的とする。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。 <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文を作成するまでに必要な3つのリテラシーを理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件の把握 ②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索する方法 ③研究を進める上でやってはいけない研究倫理上の問題 自分の研究領域において必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリングでは15回の講義に出席。在宅学修（レポート作成）では1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、manaba-Folioへの提出・再提出のやり取りに20時間以上要することを目安とする。 		
学修方略（方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 必要に応じオープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成しmanaba folioに提出する。提出されたレポートについて担当者が検討すべき事項を指摘して修正版の提出を求める。これらを繰り返して合格水準に達するレポートを完成させる。この過程において疑問が生じた場合には、Manaba-Folioを通して適宜担当者に質疑をする。 5月以降にオンラインで実質3日間実施されるスクーリング（集中授業）に出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までにmanaba folioに提出する。なお、補講を実施する場合がある。 <p>【学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導を含む)；15時間。 		
スケジュール	<p>この講義は、大学院の初年度教育に関する内容なので、日程の調整を図り、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業（在宅学習） 2単位：基本教材1></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材1.のレポート課題1 初稿〆切 2021年6月末日 → 最終稿〆切 学事暦に定める前期レポート提出期限 基本教材1.のレポート課題2 初稿〆切 2021年11月末日 → 最終稿〆切 学事暦に定める後期レポート提出期限 <p><スクーリング 2単位></p> <p>三専攻合同講義は5月以降、専攻別講義は6月以降、オンラインで実施する（VOD配信、または同時双方向授業、あるいはその組み合わせ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義） 国際情報専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） <ol style="list-style-type: none"> スクーリング・レポート課題1：8月第1週（初稿） スクーリング・レポート課題2：8月末（初稿） 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	50%	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%
	観察記録	50%	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員（kato.koji115@nihon-u.ac.jp）に必ずメールにて連絡すること。 学修およびレポート作成についての注意事項については、全てManaba Folioの「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。 レポートを作成する際には、事実と意見を峻別すること。また、意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し、前者については引用部分と出典を明らかにし、後者についてはその根拠を論理的に説明すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1 (通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	著者名： 船橋洋一 教材名： 『検証 日本の「失われた20年」』(東洋経済新報社, 2015年) ISBN: 978-4492396179 3,080円+税
参考図書	(1) 著者名： 山家悠紀夫 教材名： 『日本経済30年史 バブルからアベノミクスまで』(岩波新書, 2019年) ISBN: 978-4004317999 900円+税
	(2) 著者名： 博報堂生活総合研究所 教材名： 『生活者の平成30年史 データで読む価値観の変化』(日本経済新聞社, 2019年) ISBN: 978-4532176549 2,080円+税
	(3) 著者名： 日本経済新聞社(編) 教材名： 『令和につなぐ平成の30年』(日本経済新聞社, 2019年) ISBN: 978-4492396179 2,800円+税
履修上のポイント	国際情報専攻で学ぶ領域は、政治・経済・企業経営と幅広い分野に跨っているが、それぞれの分野の研究に必要な知識は独立しているのではなく相互に関係している。近現代の日本の歴史を振り返りつつ、研究に必要な論点を幅広く把握してほしい。浅くとも広い知識を持つことは、自分の研究テーマに沿った深い研究を進めることに十分に役に立つものとなることを理解してほしい。
レポート課題1	自らが研究テーマとして取り上げる内容に 最も近い章 を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対して賛成するか反対するかを明確にして、自らの意見を述べてください(2000字程度)。その際に、課題図書以外の参考文献(必ずしも参考図書を含む必要はない)を必ず記入すること。
レポート課題2	自らが研究テーマとして取り上げる内容とは 異なるテーマを取り上げている章 を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対する自らの意見を述べてください(2000字程度)

基本教材 2 (スクーリング)	
教材の概要	著者名： スクーリングあるいは個別ゼミにおいて、特別研究担当教員より提示 教材名： された推薦図書
参考図書	自らの研究を進めていくために、必要と思われる資料を選択し、研究計画書を作成するときに参考としてください。なお、参考として選択した参考図書・論文は、研究計画書上に記載すること。
履修上のポイント	スクーリング前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」において、①研究及び論文の最低条件を理解する、②研究倫理を含む研究を進めるための基本的なスキルを身につける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という3つの目的を達成して修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養するとともに、後半の「各専攻分野における様々な問題」において、国際情報専攻分野の研究基盤となる知識・教養の涵養に努めること。
レポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについての意見をまとめてください。その際に、前半の共通講義と後半の専攻ごとの講義を分けて意見をまとめてください(1,000字から1,500字)。
レポート課題2	各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、入学前に検討していた研究計画を見直し、再作成した 研究計画書 (3,000字から4,000字)を提出すること。なお、その際に、必ず指導教員のレビューを受けてください。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」「研究の取り組み方」について全体的な理解をする 教材に基づく学修（第 1 章から第 3 章につき通読する）
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、大学院の学び方を理解する 教材に基づく学修（第 4 章から第 6 章につき通読する）
第 3 回	教材に基づく学修（第 7 章から第 9 章につき通読する）
第 4 回	教材に基づく学修（第 10 章から第 12 章につき通読する）
第 5 回	教材に基づく学修（第 13 章から第 15 章を通読する）
第 6 回	「学修の進捗状況・課題の取組方針」について、担当教員と認識を共有する （自らの取り組むテーマ 2 つを確定し、レポート作成方針のすり合わせを行う）
第 7 回	教材に基づく学修（テーマ選択①の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 8 回	教材に基づく学修（選択したテーマ①に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 9 回	教材に基づく学修（テーマ選択②の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 10 回	教材に基づく学修（選択したテーマ②に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第 2 回		主な研究スタイルと論文の構成—研究目的の決め方と論証・検証の方法」（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第 3 回		研究倫理 1（田中堅一郎）
第 4 回		研究倫理 2（田中堅一郎）
第 5 回		先行研究のレビューとその利用方法（保坂敏子）
第 6 回		研究及び論文についての概論（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第 7 回		研究及び論文の進め方 （加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第 8 回	国際情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	国際・政治分野 1（安藤貴世） 国際法
第 9 回		国際・政治分野 2（神井弘之） 組織倫理論
第 10 回		国際・政治分野 3（安江伸夫） 国際メディア論
第 11 回		経営・経済分野 1（階戸照雄） ファミリーガバナンス論
第 12 回		経営・経済分野 2（丸森一寛） アカウンティング論
第 13 回		経営・経済分野 3（前野高章） 国際経済政策論
第 14 回		経営・経済分野 4（雨宮卓史） マーケティング論
第 15 回		経営・経済分野 5（加藤孝治） 国際情報論／人材マネジメント論

※各講義については、1 回あたり 90 分で実施する。